

S・V 羅針盤のない航海

川崎 二三彦



序

序の序

9年あまりの児童福祉司経験を経て、私が某児童相談所の「相談判定課長」となったのは、「児童虐待の防止等に関する法律」が制定、施行される少し前のことだ。

世はまさに、というの大げさだが、少なくとも児童福祉の業界、とりわけ児童相談所に身を置くものにとっては、まさに嵐を前にして強風が吹き始め、海上は不気味なうねりを増しているような状況だったろう。

だから、振り返ると、私が児童福祉司として地域を担当し、相談援助にいそしんだのは、従来型の、(というより、今となっては<旧来型の>というべきかも知れない) ケースワークスタイルによるものであった。児童福祉司としての実践については、紆余曲折がありながらも、最終的に「子どものためのソーシャルワーク」シリーズとして4冊の本にまとめたのだけれど、だからといって、児童相談所におけるケースワークの何たるかが理解できたというわけではない。むしろ、それが何

かを追い求め、探求し続けるプロセスの中で生み出されたのが、先ほどのシリーズであった。

なお、そうした探求のプロセス自体を描き出そうとしたものが、後に発刊した「子ども虐待ソーシャルワーク」に収録した「専門性



と処遇力、その2」である。

要するに、この時代を通じての私の関心は、児童相談所の児童福祉司が行う実践的ソーシャルワーク論の探求であり、その確立であったと言っていい。ただし、この探求は、世が児童虐待時代に突入して頓挫する。

それはさておき、児童福祉司という第一線の現場で働くケースワーカーから、課長という職名のついた、いわばスーパーバイザーの役割を担う立場に置かれた私は、ソーシャルワーク論のさらなる探求を行いつつ、それまでの経験を生かして、現役の児童福祉司の力になるよう努力するべく、意気込んで新しい職場に赴任したのであった。



初日

辞令交付の後、次長の案内で、関係職場に挨拶まわり。

それを済ませて課長席につくと、どうであろう、机上のケースファイルを何気なく見ると、A福祉司の児童記録票の1号用紙^{*1}の記入の仕方が間違っている。実は彼の新人時代、別の職場で児童福祉司をしていた私は、ふとした機会に、その間違いに気づいていたのだけれど、それが未だに改まっていないことがわかっていささかショックを受ける。一体どのようにして改善すればいいのか、考え込んでしまった。

夕方6時前、女子高校1年を退学するという児童本人から相談の電話があった。「帰宅が遅い」「男の子から電話が鳴った」等という理由で親から暴力を受け、家出しているという。これに対して、すぐさま次長が電話に出て対応したのには驚いた。＜児童福祉司の経験がある次長だから？＞とは思いますが、現在は役割が違うのではないかという疑問だ。その後すぐ、B福祉司が出身中学に連絡し、そのような人物がいたかどうか確かめようとしたことにも驚いた。彼は担当福祉司ではないのだが、電話1本で相談の事実を伝えて良いのか、プライバシーとか今後の相談のことも考え、たとえ調査をするにしても、具体的な方法についてはもう少し検討してかでもよかったのではないかと感じてしまう。なおかつ、卒業中学を間違えて電話し、かけ直すはめになった。私はそこでようやく声を掛けた。

「Bさん、まだ電話だけの情報ですし、それだけで断定的な言い方をするのはどうでしょう」

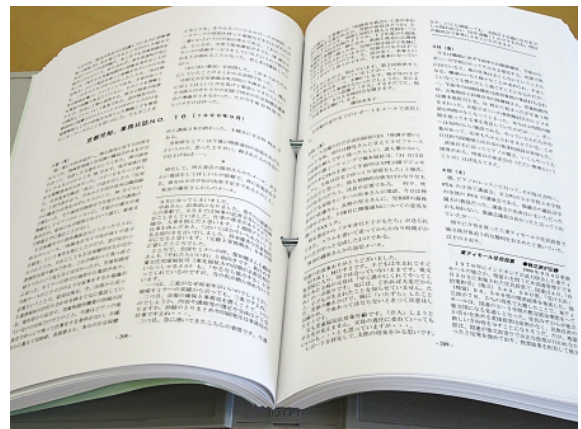
いきなり学校へ電話するという行為を緩和したかったのだが、当人はむっとした様子。

心理出身の前任の課長は、児童福祉司に対するスーパーバイザー役を担うようになって

から、児童福祉司に対する親和性が大きく増したと話していたが、児童福祉司9年を経験した者としては、むしろ自分自身のケースワークと比較して、ついつい批判的になってしまっているのではないかと案じてしまう。特に10年以上の経験があるベテランのB福祉司とは、いずれぶつかるような気がして心配だ。

業務日誌

実は、課長になったその初日から、なぜか私はこんな業務日誌を付けるようになった。児童福祉司時代、仇のようにして書き続けた面接記録から解放されたからかも知れないが、気づくと、課長としてこの児童相談所で務めた5年間で、原稿用紙にするとおそらくは2500枚をかなり超えると思われる原稿が残されたのである。



あまりに膨大な量になってしまったので、これまでは読み返すこと自体諦めていたのだけれど、昨今、スーパーバイザーの役割の重要性が盛んに取りざたされるようになったことをきっかけに、改めてこれを読み直し、当時の私が何を感じ、何を悩み、スーパーバイズについて、どのように考え、試行錯誤していたのかを示すことで、現在の対人援助に何らかの刺激を与えたいと考えるようになった。

新連載を開始しようとする所以である。

*1 児童記録票のトップページ。氏名、生年月日、住所等が記載されている、いわばケースのフェイスシート。